

水稲乾田直播栽培での新しい除草体系と施肥法

筑後分場

1 背景、目的

乾田直播栽培は育苗と代かきの省略で労働時間を大幅に減らすことができ、経営規模を拡大できる栽培法として期待されています。この技術を普及させるために、新しい省力除草体系と本県の主要な良食味品種に適した施肥体系を確立しました。

2 成果の内容、特徴

- 1) 除草剤として、播種後にマーシェット乳剤、入水5日後にメガゼータフロアブルを用いることで、処理回数を1回削減しても慣行と同等の除草効果が得られます（図1、表1）。
- 2) 「元気つくし」では、リニア型60日タイプ（L60）、シグモイド型100日（SS100）および120日タイプ（S120）被覆尿素を配合し、全量基肥で6.5Nkg/10a条施用すると収量は8.0Nkg/10a条施用と遜色がなく、玄米タンパク質含有率は低くなり、整粒歩合が向上します（表2）。
- 3) 「実りつくし」では、L60、S120およびシグモイド型140日タイプ（S140）被覆尿素を配合し、全量基肥で6.5Nkg/10a条施用すると、収量が高く、玄米タンパク質含有率や検査等級の面から品質も優れます（表2）。

3 主要なデータ、画像など



図1 乾田直播栽培における省力化体系

表1 新除草体系の雑草抑制効果と水稻の収量

(平成29～30年)

除草体系	イネ科雑草本数		水稻の収量 kg/a
	入水前	出穂期	
	本/m ²	本/m ²	
新体系 (2回散布)	10.4	0.12	51.5(103)
慣行 (3回散布)	30.4	0.08	50.8(100)
無処理	70.5	27.0	34.5

- 注) 1. 新体系：(播種後) マーシット乳剤 1000ml、(入水4日前) なし、(入水5日後) メガゼータフロアブル 500ml
 慣行：(播種後) サターンプロ乳剤 800ml、(入水4日前) クンチャーハースME液剤 1000ml、(入水5日後) トップカンLフロアブル 500ml *使用量はいずれも10a当たり
 2. 品種：実りつくし。播種期：6月上旬。入水：6月下旬(水稻2.5～3葉期頃)。
 施肥：全量基肥で6.5Nkg/10a施用。
 3. ()内は対慣行比。

表2 乾田直播栽培における施肥量が収量・品質に及ぼす影響

(平成28～30年)

窒素施用量 (kg/10a)	収量	タンパク質 含有率	整粒 歩合	検査 等級
元気つくし	kg/a	%	%	
6.5	53.1	6.6	77	3.4
8.0	53.3	6.8	74	3.7
実りつくし				
6.5	53.7	6.1	68	3.5
8.0	48.0	6.3	66	4.0
9.5	48.8	6.4	63	4.2

- 注) 1. 施肥
 元気つくし：L60とSS100およびS120被覆尿素を40:30:30または50:25:25で配合したものを播種時に基肥として条施用。
 実りつくし：L60とS120およびS140被覆尿素を40:30:30または50:25:25で配合したものを播種時に基肥として条施用。
 2. 生育等
 元気つくし：播種期6月上旬、入水6月下旬(水稻2.5～3葉期頃)。
 出穂期は8月17～18日。成熟期は9月24～25日。
 実りつくし：出穂期は8月30～31日、成熟期は10月15～17日。
 3. 検査等級は1等上(1)～3等下(9)。